

名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会

<日時・場所>

令和4年1月19日（水）18時30分～ 名古屋能楽堂

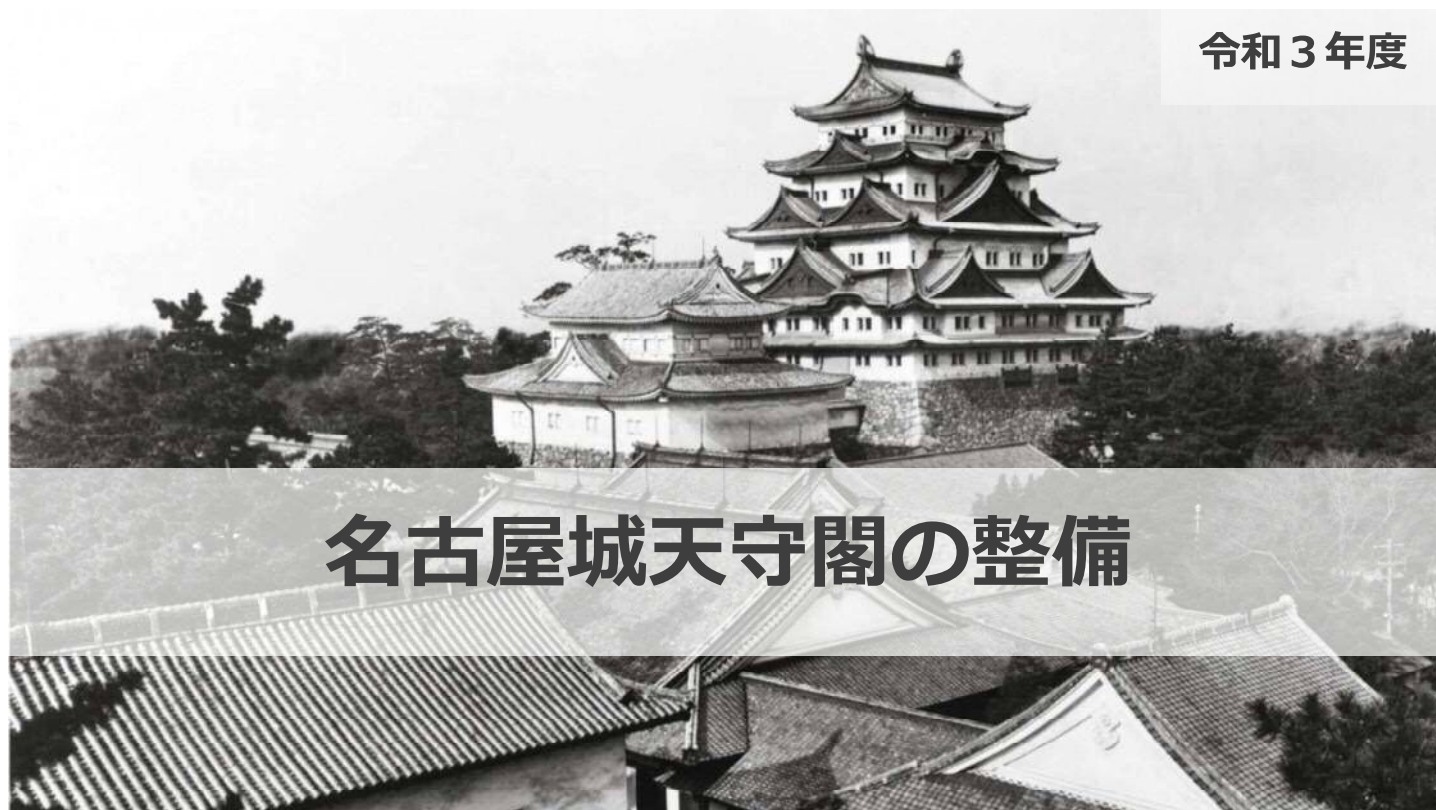
令和4年1月20日（木）18時30分～ 名古屋市公会堂 大ホール

令和4年1月22日（土）13時30分～ 鯉城ホール

次 第

1. 開 会
2. 学芸員による講演
 - 1月19日 服部 英雄
特別史跡名古屋城跡をめぐる最近の研究課題
 - 1月20日 原 史彦
写真でみる幕末の名古屋城 -尾張徳川家14代慶勝の写真術-
 - 1月22日 木村 有作
特別史跡名古屋城跡 ～文化財の宝庫名古屋城～
3. 名古屋市からの説明
4. 質疑応答
5. 閉 会

※名古屋市からの説明資料、及び、アンケートの内容につきましては、
後日、名古屋市公式ウェブサイトに掲載します。



名古屋城天守閣の整備

特別史跡名古屋城跡

○尾張名古屋のシンボル

○世界に誇れる日本一の近世城郭

- ・ 天守 現存する最大の姫路城天守の約2倍の巨大さ
- ・ 本丸御殿 二条城二の丸御殿と双璧をなす近世城郭御殿の最高峰
- ・ 石垣 大阪城、江戸城に次ぐ規模の現存石垣量
- ・ 二之丸庭園 現存する城内庭園としては最大

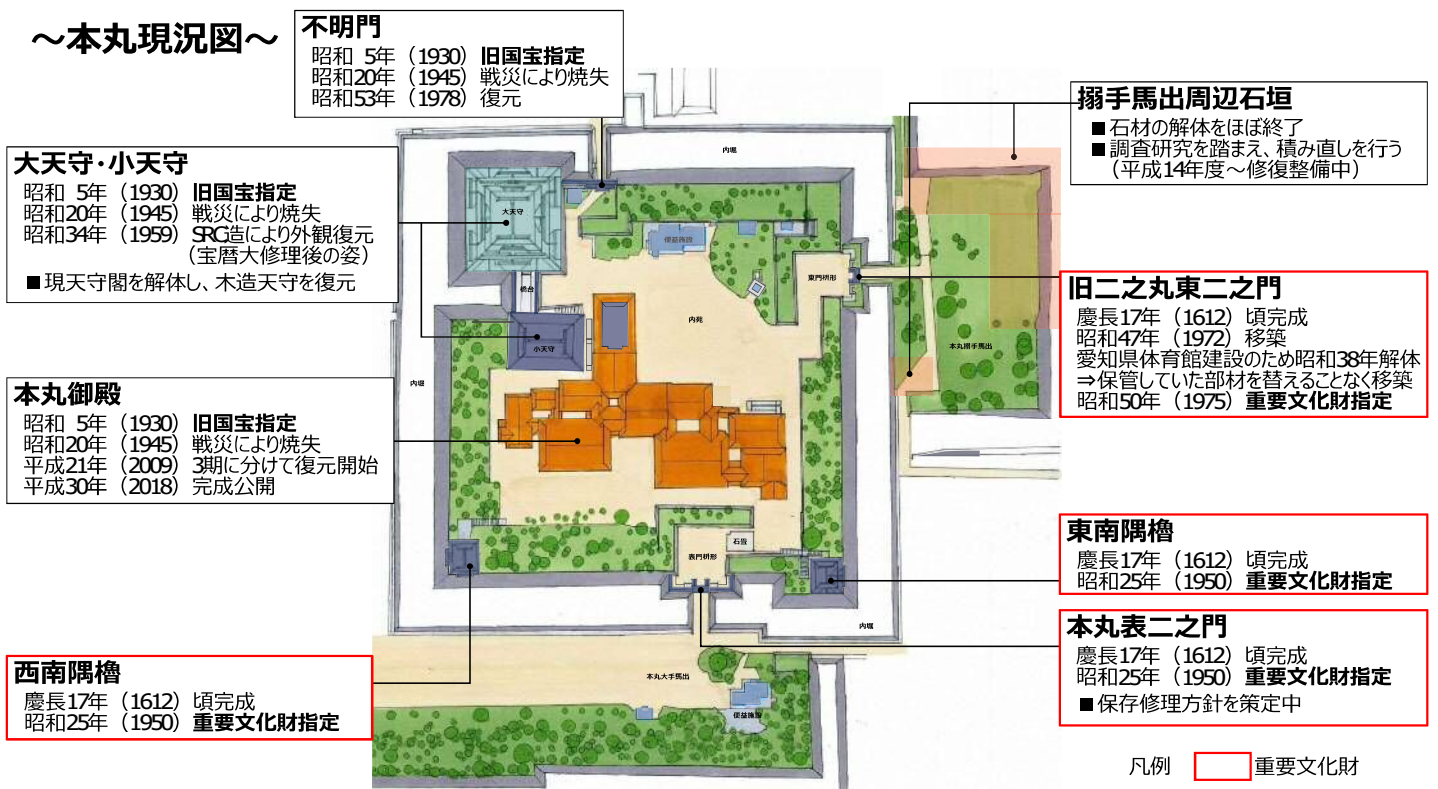
歴史的・文化的価値を伝え、魅力をより一層高め、
後世につなげるため文化財の保存・活用を進めている

名古屋城「本丸」の整備

○本丸整備基本構想

近世期最高水準の技術により築城された名古屋城の象徴である本丸の姿を現代に再現

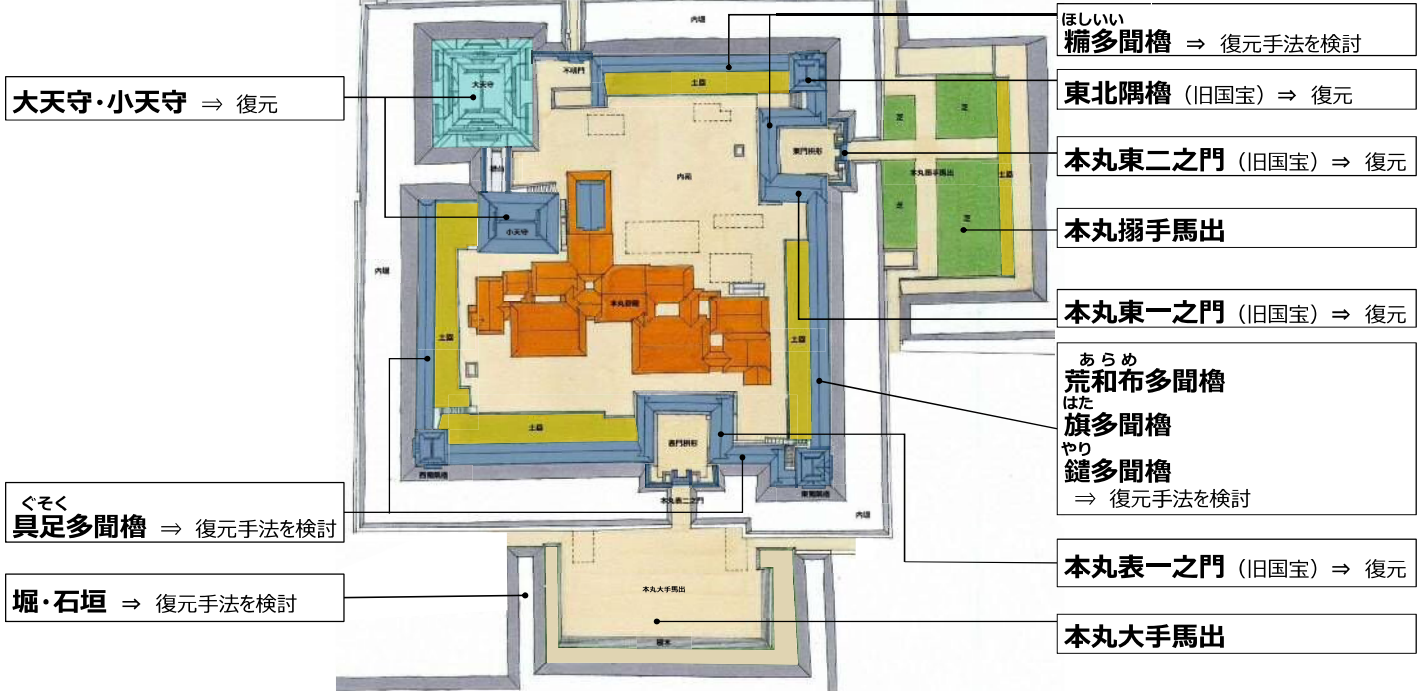
- ・ 明治初期に姫路城と共に日本城郭の見本として永久保存されることとなった江戸期の名古屋城本丸の姿を再現する
- ・ 現存する石垣、建造物等の適切な保存管理と現存しないものの段階的な復元等により、本丸全体を往時の姿が実体験できる場とする



～本丸将来構想図～

近世期最高水準の技術により築城された名古屋城の象徴である本丸の姿を現代に再現する

- 現存する遺構及び建造物等の適切な保存
- 近世城郭の中枢部を体感
- 変更された遺構や焼失建造物等の復元による歴史空間の再現
- 復元建造物を中心とした活用の展開



名古屋城「天守」の整備

○木造復元の意義

- ・ 本丸に現存及び復元する建造物等とあわせて江戸期の本丸を体感可能
- ・ 内部空間、構造まで史実に忠実に再現することが可能
→天守の特徴をはじめとする史跡の本質的価値の向上と理解の促進



○木造復元の意義

- ・世界的観点からも木造建築物の復元における一つの指標となりうる
- ・伝統技術の継承と実践の場



復元事業の進捗状況

1. 文化庁の所見・指導への対応

- ・文化庁の所見・指導
- ・今後の流れ
- ・石垣保存方針
- ・基礎構造の方針
- ・バリアフリーの方針

2. 木材の調達及び保管状況

3. 機運醸成

1. 文化庁の所見・指導への対応

○経緯

現天守閣解体の現状変更許可申請

文化庁から申請に対する指摘事項

指摘事項に対する回答

1 現天守閣の解体・仮設物設置等が石垣等遺構に与える影響

- ・考古学的視点及び工学的視点を合わせた総合的な視点からの調査・検討の結果について、各分野の有識者による十分な議論のうえ、影響は軽微であり、計画が適切であるとの合意を得た

<整理した課題>

- ・調査により把握した天守台石垣の築石の割れ、被熱劣化による剥離、並びに御深井丸側内堀石垣の築石の表面劣化、間詰石の抜け落ちについては、仮設物設置前に必要な対策を実施する
- ・御深井丸側内堀石垣については、令和3年度に石垣背面の空隙、築石の控え長などの詳細調査を実施し、その結果を踏まえて石垣の保存を確実に図る仮設計画とする
- ・小天守西側の濃尾地震の際に修復した石垣の部分については、令和3年度に地下遺構面の標高を確認する調査を実施し、その結果を踏まえて石垣の保存を確実に図る仮設計画とする

2 現状変更を必要とする理由

- ・保存活用計画に基づく名古屋城本丸及び天守の整備基本構想を有識者の合意を得て整理した

文化庁へ指摘事項への回答を提出

文化庁の所見が示される

復元事業の進捗状況

1. 文化庁の所見・指導への対応

・文化庁の所見・指導

- ・今後の流れ
- ・石垣保存方針
- ・基礎構造の方針
- ・バリアフリーの方針

2. 木材の調達及び保管状況

3. 機運醸成

文化庁の所見・指導

○文化審議会文化財分科会の所見

- ・ 現天守の解体・仮設物設置が石垣等遺構に与える影響を判断するための調査・検討が一定程度進捗したものと評価できる
- ・ 天守解体と木造天守復元を一体の計画として審議していく必要があると認められる
- ・ 申請については、天守解体のみならず、木造天守復元についても一体としてその内容に加えるよう、見直しを図るのが適当である

文化庁の所見・指導

○文化庁からの指導

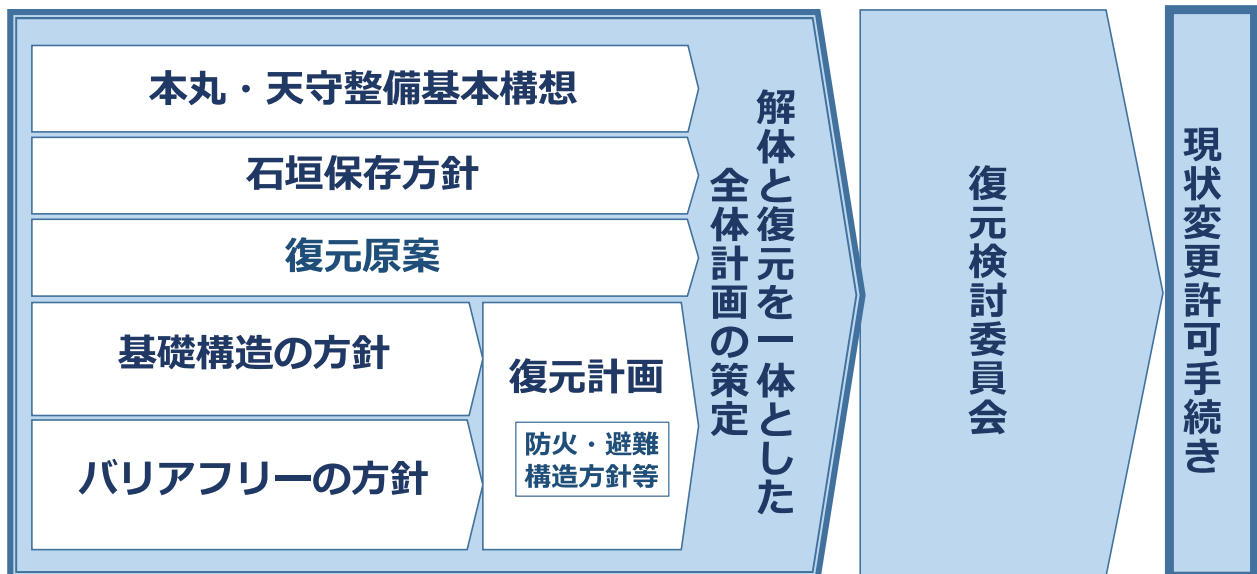
- ・ 有識者による合意形成を行いつつ、仮設物設置等が石垣等遺構に与える影響について、引き続き調査・検討されたい
- ・ まずは、令和3年度中に調査・検討している各項目については、その調査・検討の結果を文化審議会文化財分科会第三専門調査会に報告されたい
- ・ 木造天守復元の具体的内容については、史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準に準拠した適切な内容となるよう必要な調査・検討を実施されたい
- ・ 石垣等遺構の保存に問題がなく、かつ、歴史的建造物の再現行為として適切であること等、必要な条件が整った段階で解体と復元を一体とした現状変更を提出されたい
- ・ 復元検討委員会には、石垣保存方針、基礎構造、バリアフリーの方針などの諸課題を含む、解体と復元を一体とした全体計画をある程度まとめることが必要

復元事業の進捗状況

1. 文化庁の所見・指導への対応
 - ・文化庁の所見・指導
 - ・今後の流れ
 - ・基礎構造の方針
 - ・石垣保存方針
 - ・バリアフリーの方針
2. 木材の調達及び保管状況
3. 機運醸成

今後の流れ

○現状変更許可手続きまでの手順のイメージ



復元事業の進捗状況

1. 文化庁の所見・指導への対応
 - ・文化庁の所見・指導
 - ・今後の流れ
 - ・石垣保存方針
 - ・基礎構造の方針
 - ・バリアフリーの方針
2. 木材の調達及び保管状況
3. 機運醸成

石垣保存方針

○目的

天守台等の石垣を確実に後世に伝えるため、現況調査の結果を踏まえて、対象範囲の石垣・石材の今後の保存及び修理の考え方を整理する

○概要

対象範囲

天守閣整備事業の対象範囲内の石垣（天守台石垣（穴蔵石垣を含む）、御深井丸側内堀石垣等）

進捗状況

- ・対象範囲について、外観調査票の作成等の基礎的な現況調査は実施済
- ・現況調査が終了した部分の保存、修理の考え方についての検討を実施中

○今後の進め方

- ・御深井丸側内堀石垣の背面の空隙を調査するためのレーダー探査、穴蔵石垣の発掘調査等の追加的な調査を実施し、対象範囲の石垣の現況把握を進める
- ・現況調査の結果に応じた石垣の保存、修理の考え方を整理し、有識者に諮りつつ石垣保存方針を確定し、全体計画に反映

復元事業の進捗状況

1. 文化庁の所見・指導への対応
 - ・文化庁の所見・指導
 - ・今後の流れ
 - ・石垣保存方針
 - ・基礎構造の方針
 - ・バリアフリーの方針
2. 木材の調達及び保管状況
3. 機運醸成

基礎構造の方針

○前提となる考え方

- ・文化庁が定める「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」を遵守する
- ・江戸期からの姿を残す文化財である天守台本来の遺構には新たに手を加えないことを原則とし、その上で可能な限り史実に忠実な復元を行う
- ・熊本地震での熊本城の被災状況を鑑み、人命の安全確保を第一とし、木造天守は大地震時に崩壊する可能性のある天守台で支持しない基礎構造とする

○調整会議

石垣・埋蔵文化財部会、天守閣部会等の有識者で構成する、基礎構造の検討を行う「名古屋城木造天守基礎構造検討に係る調整会議」を設置

○今後の進め方

調整会議を概ね2か月に1回開催し、確定した基礎構造の方針を、復元計画に反映

復元事業の進捗状況

1. 文化庁の所見・指導への対応
 - ・文化庁の所見・指導
 - ・今後の流れ
 - ・石垣保存方針
 - ・基礎構造の方針
 - ・バリアフリーの方針
2. 木材の調達及び保管状況
3. 機運醸成

バリアフリーの方針

○昇降技術の公募

公募によりできるだけ多くの方が使用できる昇降技術を募り実用化することで、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立を実現

○公募の概要

求める昇降技術

大天守の内部を垂直に昇降する技術、大天守の階段を直接昇降する技術、外部から直接大天守1階以上に入城できる技術等、幅広く技術を募集

主な条件

- ・大天守の柱、梁を傷めない
- ・大天守1階まで昇ることを必須とし、可能な限り上層階まで昇ることができる

公募への高齢者、障害者等の参画

高齢者、障害者等からの意見を踏まえ、昇降技術を選定

○今後の進め方

公募により昇降技術を選定し、その選定内容を含めた木造天守全体のバリアフリーの方針を、復元計画に反映

復元事業の進捗状況

1. 文化庁の所見・指導への対応

- ・文化庁の所見・指導
- ・今後の流れ
- ・石垣保存方針
- ・基礎構造の方針
- ・バリアフリーの方針

2. 木材の調達及び保管状況

3. 機運醸成

2. 木材の調達及び保管状況

○木材の調達

- ・江戸時代、名古屋城を築城するため、裏木曾地域（中津川）から大量の木材を調達した記録が残っている。
- ・木造天守復元に使用する木材は、裏木曾地域をはじめとした木材関係者のご協力をいただき、全国各地から調達している。

○木材の保管状況（令和3年度末見込み）



			内訳
保管場所	樹種	使用箇所	本数（本）
岐阜	桧・松	柱・梁	1, 178
愛知	桧・松・櫟	柱・梁	156
奈良	桧	柱	335
高知	桧	柱・梁	402
計	—	—	2, 071

復元事業の進捗状況

1. 文化庁の所見・指導への対応
 - ・文化庁の所見・指導
 - ・今後の流れ
 - ・石垣保存方針
 - ・基礎構造の方針
 - ・バリアフリーの方針
2. 木材の調達及び保管状況
3. 機運醸成

3. 機運醸成

○寄附募集

いただいたご寄附は、木造復元事業に活用させていただいています。

イベント・城内での寄附募集



金シャチパートナー制度

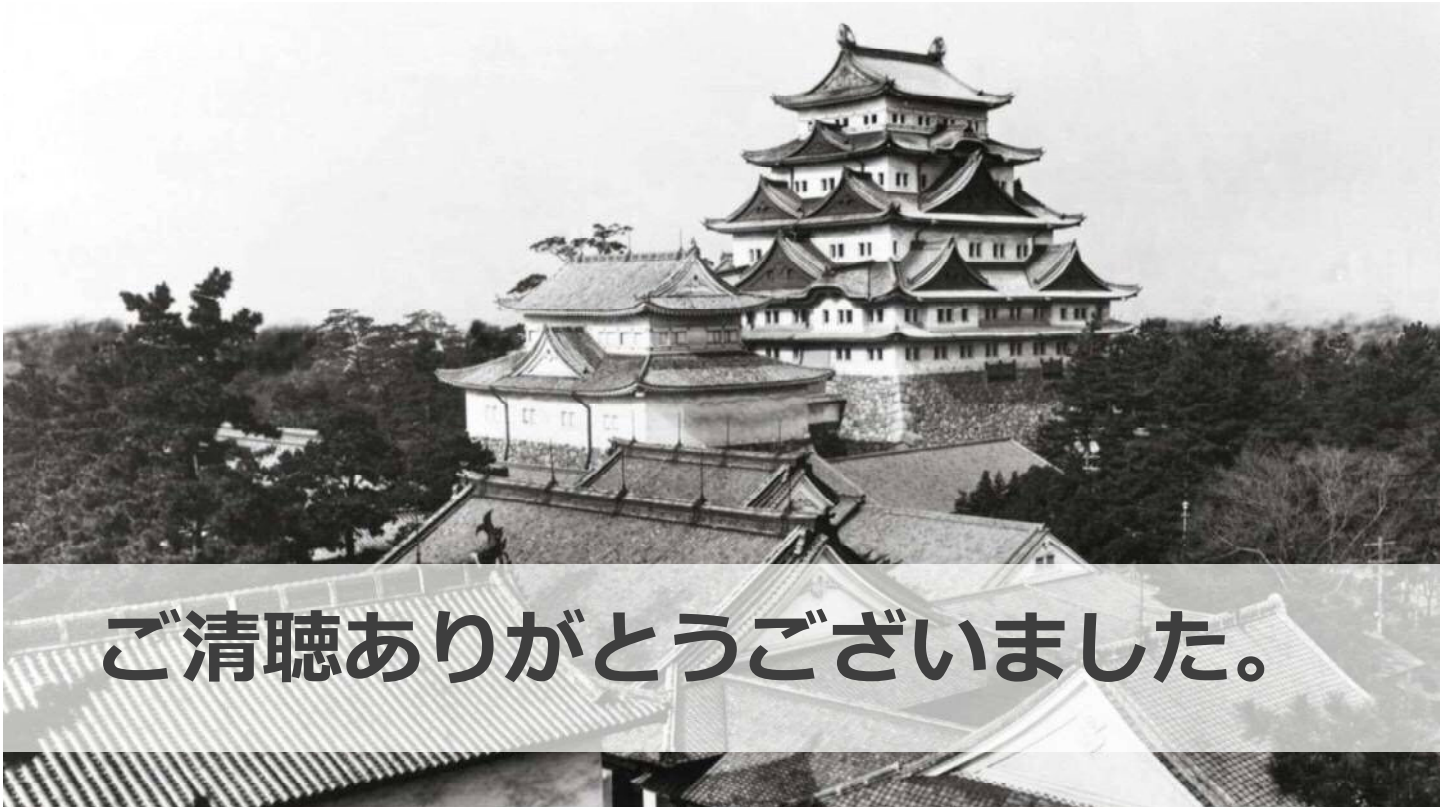
木造復元事業をご支援
いただけるパートナーを
募集しています。

- ・売り上げの一部の寄附
- ・物品支援
(企業等による製品の提供)
など

復元事業の推進

○事業推進の取り組み

- ・文化庁や地元有識者からの指導・助言に基づき適切に対応する
- ・史跡全体の適切かつ厳格な保存を最優先にし、石垣をはじめとした遺構等に影響を及ぼすことのないよう、慎重に整備を進める
- ・市民の皆さまの木造復元事業への理解が深まるよう機運の醸成に努める



ご清聴ありがとうございました。

